

科目名称	日本の歴史		授業コード	20001720	
担当教員	熟 美保子				
単位数	2.0	授業形態	講義	科目分類	歴史・文化・社会／人間・歴史・社会
年次	1	開講年度	2020	開講学期	後期
関連資格					
履修制限等	2015年度以降入学生限定				
授業の目的と到達目標(学修成果)	日本の対外関係史について基礎的知識を習得する。また、現代に根ざす諸問題を歴史的に理解する。				
授業の概要(内容)	この授業では古代から現代までの日本の歴史について、国際関係を中心に概説的に講義する。たとえ海に囲まれた島国であっても、いつの時代でも外部と一切関わりを断つことは出来ず日本は成り立たない。国際関係を基軸に講義することで日本のあゆみを知り、現代社会につながる諸問題について理解を深めていく。				
授業計画	1: ガイダンス 2: 「日本」のなりたちについて学ぶ 3: 遣唐使について学ぶ 4: 古代の出入港地について学ぶ 5: 元寇と倭寇について学ぶ 6: 西洋人との出会いについて学ぶ 7: 日本人の海外進出について学ぶ 8: 朝鮮出兵について学ぶ 9: 「鎖国」の成立過程について学ぶ 10: 近世の日朝関係について学ぶ 11: 長崎に來航した異国人について学ぶ 12: 神戸の居留地について学ぶ 13: 近代知識人の思想について学ぶ 14: 満鉄がもたらしたものについて学ぶ 15: まとめ				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	日本のおかれた現状を知るために、日頃から新聞やニュースなどを見る習慣を身につける。				
評価方法	定期試験(80%)・コメントシート(20%)				
課題・試験に対するフィードバックの方法					
使用テキスト	毎回プリントを配布する。				
参考テキスト・URL	適宜紹介する。				
各自準備物					
実習費					
その他					

科目名称	世界の歴史	授業コード	10001730
担当教員	紫垣 聡		
単位数	2.0	授業形態	講義
年次	1	開講年度	2020
関連資格		科目分類	歴史・文化・社会／人間・歴史・社会
履修制限等	2015年度以降入学生限定		
授業の目的と到達目標(学修成果)	(1)現代とは異なる社会や文化のありようを通じて、他者理解のための複眼的な視点を養う。 (2)近代世界の成り立ちと今日的な諸問題の経緯について、歴史的に説明できる。		
授業の概要(内容)	今日の世界情勢はますます混迷を深めており、グローバル化が進むなか日本社会の先行きも容易に見通せない。このような世界を生きていくうえで、教養としての歴史は重要である。いまとは異なる過去の社会のしくみと成り立ちを知ることが、わたしたちが生活している世界の問題を理解するだけでなく、時代の変化に適応できる思考力を養うことにつながる。 この授業では、①おもに前半で、近代以前のさまざまな時代・地域における文化や社会、それらの交流を概観する。②後半では近代世界の成り立ちとその変遷、国際社会と日本の関わりについて講義を行い、現在わたしたちが直面する諸問題についての理解を深める。		
授業計画	1: イントロダクション 2: キリスト教世界の文化と社会 3: イスラーム世界とヨーロッパ 4: 近代以前の都市社会 5: 中世の戦争と平和 6: 「辺境」への／からのまなざし 7: 世界の一体化のはじまり 8: ネイションの形成 9: 日本の近代化と国際社会 10: 近代西洋のなかのアジアと日本 11: 大衆の世界大戦 12: 冷戦期の世界と日本 13: 新自由主義の世界 14: 国民国家のゆくえ 15: まとめ		
実務経験のある教員			
授業時間外学習	授業を理解するために、世界史の基本的な知識は必要である。高校の教科書などであらかじめ復習しておくこと。また、国際情勢や社会の動向に関心を持つことは学習成果の充実につながる。新聞や読書を通じて世の中への関心を高めてほしい。 小レポートでは受講生の主体的な学習を重視する。インターネットの記事等を抜き書きするのではなく、授業の内容をもとに複数の文献を利用して自分の意見をまとめること。		
評価方法	期末試験(70%)と、複数回の小レポート(30%)により評価する。		
課題・試験に対するフィードバックの方法			
使用テキスト			
参考テキスト・URL	授業中、必要に応じて適宜紹介する。		
各自準備物			
実習費			
その他	板書形式で授業を行い、適宜資料プリントを利用する。講義での説明をノートにとることを求める。また授業中の私語はかたく禁じる。		

科目名称	現代社会論		授業コード	20001740	
担当教員	エルナンデス アルバロ				
単位数	2.0	授業形態	講義	科目分類	人間・歴史・社会
年次	2	開講年度	2020	開講学期	後期
関連資格					
履修制限等					
授業の目的と到達目標(学修成果)	この授業では現代社会の成り立ちについて考えるための基礎を学ぶ。実例を踏まえながら社会科学の考え方や基礎概念を身につけることで、自分の日常生活と社会との接点を自分なりに考え、現代社会についての理解を深めることになる。				
授業の概要(内容)	この授業の重点は単に知識を積み重ねるより、むしろ社会科学の考え方を身につけることにある。「近代」、「国家」、「資本主義」と「イデオロギー」という四つの概念に焦点を合わせ、それらの概念をツールにして、毎日のニュース、恋愛や人間関係、メディア表現、文化政策、広告分析、キャラクター、SNS など、身近な現実について考察する。授業で学ぶ基礎概念を使って、自分の意見をまとめた短いレポートの書き方練習も行う。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1: 授業について:社会について考える</li> <li>2: 社会科学の考え方:(行為)、(秩序)と(価値)—「私たちは自由？」</li> <li>3: 「近代」の検討:世界と私のつながりを問い直す</li> <li>4: 「近代」の検討:友情、恋愛と家族—気持ちのつながり</li> <li>5: 「近代」の検討:共同体の喪失と再建—コミュニタリアニズムとアナキズム</li> <li>6: 「近代国家」の検討:作られた伝統と想像の共同体</li> <li>7: 「近代国家」の検討:日本の文化・メディア制度からみる国民国家</li> <li>8: 「近代国家」の検討:国民国家の限界—コスモポリタニズム、移民、トランスローカリティ</li> <li>9: 「資本主義」の検討:資本の再生産を求める社会—労働、生産、消費で生きる</li> <li>10: 「資本主義」の検討:文化産業からコンテンツ産業へ—多様化する生産と消費</li> <li>11: 「資本主義」の検討:情報社会におけるcommons、価値の多様性と贈与交換</li> <li>12: 「イデオロギー」の検討:現代社会における文化とメディアの役割を考える</li> <li>13: 「イデオロギー」の検討:神話と物語から世界を見る</li> <li>14: 「イデオロギー」の検討:表現の民主化—近代国家と資本主義経済の中で表現する</li> <li>15: まとめ:社会は私たちの行為で成り立っている</li> </ol>				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	授業前には、当該授業のキーワードやテーマについて調べ、それに関する自分の関心ポイント又は違和感などを簡潔にまとめること。まとめ方については第1回の授業で説明する。各授業の最後に、次の授業のキーワードとそれに関する関連文献などを伝える。				
評価方法	毎回の授業のコメントシート20%、レポート30%、試験の代わりにレポート50%。				
課題・試験に対するフィードバックの方法	提出されたレポート、コメントシート等を採点し、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくなったコメントや意見を紹介する。				
使用テキスト					
参考テキスト・URL	井上俊/長谷正人編著『文化社会学入門—テーマとツール—』(ミネルヴァ書房)、井上俊/伊藤公雄編著『社会学ベシックス』(世界思想社)シリーズ、特に:『第1巻自己・他者・関係』、『第2巻社会の構造と変動』、『第3巻文化の社会学』、『第7巻ポピュラー文化』				
各自準備物					
実習費					
その他					

科目名称	情報とネットワーク/情報とメディア		授業コード	10002173	
担当教員	大内 克哉	金子 照之			
単位数	2.0	授業形態	講義	科目分類	科学・身体/人間・歴史・社会
年次	2	開講年度	2020	開講学期	前期
関連資格	教職、学芸員				
履修制限等					
授業の目的と到達目標(学修成果)	<p>授業の目的 現代、ネットワークや情報の活用は不可欠であるが、デザインやアートも含めて情報を自覚的に発信するための方法や考え方について理解することで、そのような状況を批判的に捉え直し、行動できるようになる。一方で脳によって生み出される感情について学ぶことで、ネットワークの本質が理解できる。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アナログな人間とデジタルな情報との関係を論じることができる。</li> <li>・デジタル処理の基本原則を理解できる。</li> <li>・有効なネットワーク利用について論じることができる。</li> <li>・ヒトの脳が、一種のネットワークであり、特に感情がどのようにして生まれるのかを論じることができる。</li> <li>・感情には様々な種類があり、それらを分類できると共にそれぞれ脳の別の箇所構成されていることを示すことができる。</li> <li>・ネットワークとは何かを本質的な意味で述べるができる。</li> </ul>				
授業の概要(内容)	日常生活においてネットワークを通じて相互に関連しあった情報が、われわれの行動や価値観に大きな影響を与えるようになって久しい。こうした状況において、ネットワークと情報の可能性、問題点についての十分な理解が、これからの時代を生き抜くうえで不可欠なものとなっている。従来の情報理論を踏まえ、情報リテラシーの観点から、さまざまな事例をもとに学習する。一方で、ネットワークの特殊な例として脳を考え、特に感情がどのようにして生まれるのかをネットワークの観点から論じる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション(大内、金子)</li> <li>2. 脳の情報処理システム(大内)</li> <li>3. 「こころ」と情動(大内)</li> <li>4. 情動を操り、表現する脳(大内)</li> <li>5. 海馬と扁桃体(大内)</li> <li>6. 人が感じる情報(金子)</li> <li>7. 情報の表現方法とデータ圧縮(金子)</li> <li>8. 情報量について(金子)</li> <li>9. 情報遷移図とネットワーク(金子)</li> <li>10. 恐るべき報酬系①(大内)</li> <li>11. 恐るべき報酬系②(大内)</li> <li>12. 「こころ」とは何か+小テスト(大内)</li> <li>13. IoTーネットワークにつながるモノたち(金子)</li> <li>14. ウェブアプリとネットワーク(金子)</li> <li>15. 人工知能とネットワーク(金子)</li> </ol>				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	パソコンやスマホで何をしているのかをふだんから注意し、これらのメディアとのつきあい方を自覚的に意識する。				
評価方法	4回の小レポート(金子)50点。大内担当の最終日に行う小テスト(大内)50点。レポートはすべてを提出することで評価対象とする。どちらか一方を提出していないと、合格点に到達しないので、必ず両方提出すること。				
課題・試験に対するフィードバックの方法					
使用テキスト	その都度配布する。				
参考テキスト・URL					
各自準備物					
実習費					
その他					

科目名称	人文地理学		授業コード	10001750	
担当教員	石原 肇				
単位数	2.0	授業形態	講義	科目分類	歴史・文化・社会／人間・歴史・社会
年次	1	開講年度	2020	開講学期	前期
関連資格					
履修制限等	2015年度以降入学生限定				
授業の目的と到達目標(学修成果)	社会との関わりの中で持続的に創造的な活動ができる人材を目指して、人文地理学の基礎を学ぶ。 ＜地理学的なものの方・考え方＞について理解し、それをを用いて身近な事象を捉えることができるようになる。				
授業の概要(内容)	本授業は、＜地理学的なものの方・考え方＞について幅広く解説するものである。この見方・考え方は、意識されていない場合も多いが、実は私たちの生活の様々なところに活用されている。もちろん建築やまちづくり、工業デザインなどとも密接な関係があるだろう。本授業では、教養としての地理学を学ぶとともに、身近な事象を新たな視点から捉えるきっかけを提供し、将来、個々の学生が専攻する分野でも活かせるものであることを解説する。各回の小課題とレポート作成を通じて、地域の調査学習を実施し、自ら調査する方法の理解を促す。				
授業計画	<p>指定のテキストに沿って、基本的に各回でテキストの1つのテーマを取り上げ解説する。</p> <p>1: イントロダクション 2: 人口 3: 都市 4: 郊外と大都市圏 5: 小売業 6: サービス業 7: 観光 8: 交通 9: 工業 10: 農業 11: 芸術 12: 国土政策・都市政策 13: エネルギー・資源問題 14: 地域調査、地形図からみる人間生活 15: 地理学をどんな場面で活かすか</p> <p>なお、上記の1および15はテキストによらず人文地理学の導入とまとめとする。 また、10はテキストに掲載されていない事項であるが、経済地理学的な観点から不可欠な事項と考え、取り入れる。 さらに、11もテキストには掲載されていない事項であるが、芸術工学を専攻する学生を対象とすることから、芸術工学と地理学との関連性について検討する機会として設ける。</p>				
実務経験のある教員	人文地理学をよりよく理解する上で地域の実情を的確に認識することが必要である。 地方公務員(25年勤務)として地域の環境保全や活性化、防災などに携わってきた経験を活かし、実際の現場で生じている具体例も合わせて解説することで、テキストに記載された事項の理解を促す。				
授業時間外学習	<p>ふだん通っている地域はどのように形成されたのか、なぜあんな場所に住宅が建っているのか、新聞・ニュースに出てくる地名は一体どこなのか、というように、空間に対する意識を日常的に持つこと。</p> <p>テキストの次回講義の章を必ず事前に読んでくること。 次回講義の小課題で課されるであろう事項について事前に調べておくこと。 各回の小課題で解答した内容については、そのポイント等をレポート等にまとめるなど、復習に励むこと。</p>				
評価方法	授業中に課す小課題(45%)、中間レポート(25%)、期末レポート(30%)				
課題・試験に対するフィードバックの方法	授業中に課す小課題については、適宜講義の中で受講者の解答をふまえた解説等を行う。				
使用テキスト	『現代社会の人文地理学』稲垣稜著古今書院、2014				
参考テキスト・URL	参考文献は授業中に紹介する。				
各自準備物	使用テキスト				
実習費					
その他					

科目名称	文化人類学①②		授業コード	20201512	
担当教員	行木 敬				
単位数	2.0	授業形態	講義	科目分類	歴史・文化・社会／人間・歴史・社会
年次	カリキュラムにより異なります。	開講年度	2020	開講学期	前期 / 後期
関連資格	学芸員				
履修制限等					
授業の目的と到達目標(学修成果)	<p>この授業の目的は、デザインやアートの理解や創作に有用な、異文化についての知識や各種の文化理論を修得することです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標1:文化人類学の基本的な視座である文化相対主義を説明することができる。</li> <li>・目標2:機能主義、構造主義、象徴論、境界論など、各種文化理論を説明することができる。</li> <li>・目標3:それらの理論を使い、自分の身近にある様々な文化事象を分析することができる。</li> </ul>				
授業の概要(内容)	<p>世界各地の文化、特に信仰(世界宗教から各地の伝統的な民間信仰、神話や民話、呪術的儀礼など)を事例にとりながら、文化人類学の視点、および分析のための諸理論を解説していきます。</p> <p>授業にあたっては、私自身のニューギニア調査など遠い異文化の事例と、ポップカルチャーなどみなさんに身近な自文化の事例を、同等に取り上げ、同じ理論で分析していくことで、それらが地続きの事象であることを示したいと考えています。</p>				
授業計画	<p>01: イントロダクション —— 文化人類学について、この授業について、期末レポートについて</p> <p>02: 不思議の国の昼休み —— 文化の多様性と自文化の相対化</p> <p>03: 一神教における「神」とは何か —— 信仰をめぐる初期理論</p> <p>04: 私は世界で世界は私 —— アジアの諸宗教からみた初期理論の問題点</p> <p>05: 魔法少女とメラネシア —— 呪カマナの観念からみた初期理論の問題点</p> <p>06: お父さんがいない島 —— 機能主義の登場と文化相対主義</p> <p>07: 妖術師ルイスの告白 —— 民間伝承と機能主義の限界</p> <p>08: アスディワルの奇妙な冒険 —— レヴィ=ストロースの神話分析1</p> <p>09: お父さんが僕を殺した／お母さんが僕を食べた —— レヴィ=ストロースの神話分析2</p> <p>10: 世界観のスキマ、想像力のスイッチ —— ダグラスの境界論</p> <p>11: オバケの作り方、神さまの作り方 —— 境界と文化的想像力</p> <p>12: 新しい季節の作り方 —— 儀礼的逆転とコムタス</p> <p>13: 病いの投げ捨て方 —— 治癒儀礼論1:象徴の操作による状況の主体化</p> <p>14: 儀礼で病気が治る仕組み —— 治癒儀礼論2:コミュニティの再構築としての病気治療</p> <p>15: 受け入れられない痛みを受け入れる —— 治癒儀礼論3:物語の作成による病気治療</p>				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	<p>期末レポートでは、自分で探してきた事例を、授業で学んだ理論を使って文化人類学的に分析してもらいます。</p> <p>時間外学習としてその日の授業内容の復習のほか、期末レポートの題材になりそうな文化的事象はないか、常に身の回りに文化人類学的な視点を向けておいてください。</p>				
評価方法	<p>4回の授業内小テスト(各10点)と、期末レポート(60点)の合計で評価します。</p> <p>期末レポートには3つの採点ポイント(各20点)を設けます。詳しくは初回の授業で説明します。</p>				
課題・試験に対するフィードバックの方法	<p>小テストは翌週の授業で解説をおこないます。</p> <p>期末レポートも、希望者にはコメントを付けて返却します。(他大の教員なので、普段はこの学校にはいません。教務課を通じて連絡をください)</p>				
使用テキスト	教科書は使用しません。詳細なレジメを毎回配布します。				
参考テキスト・URL	授業進行に合わせて紹介していきます。				
各自準備物					
実習費					
その他					

科目名称	日本民俗学①②		授業コード	20202561	
担当教員	志賀 祐紀				
単位数	2.0	授業形態	講義	科目分類	歴史・文化・社会／人間・歴史・社会
年次	1	開講年度	2020	開講学期	前期 / 後期
関連資格					
履修制限等					
授業の目的と到達目標(学修成果)	<p>(1) 日本の伝統文化について理解し、2つ以上の具体的な民俗の説明ができるようになる。</p> <p>(2) 日本の伝統文化と現代、或いは芸術やデザインとの関わりについて理解し、2つ以上の具体的な事例を説明できるようになる。</p> <p>(3) 自らの生活の場における民俗の諸相を調べ、具体的に述べるようになる。</p>				
授業の概要(内容)	<p>日本民俗学とは、日本の伝統文化を対象として、日本とは、或いは日本人や日本文化とは何かについて考え、明らかにしようとする学問である。昨今、民俗学の視点は多様化している。研究者が現代社会の様々な現象に注目したり、アーティストやデザイナーが民俗学的関心を持ちながら活動したりするなどの事例が見られる。つまり、日本民俗学とは決して過去の日本の伝統文化に関心を持つ者だけの学問ではなく、現代に生きる者、そしてアーティストやデザイナーなどの表現者にも関わりがある学問なのである。本講義では、年中行事、信仰、祭りなどの日本の伝統文化の具体的な事例を取り上げながら学習する。さらに、現代社会や、芸術、デザインと民俗学の関わりについても言及する。</p>				
授業計画	<p>1: 日本民俗学とはなにか                  2: 民俗学の成立と柳田国男                  3: 『遠野物語』を読む                  4: 年中行事と民俗                  5: 信仰の民俗                  6: 怪異の民俗                  7: 女の民俗                  8: 祭りの民俗                  9: 現代と民俗                  10: 芸術家のフィールドワーク                  11: 写真と民俗                  12: デザインと民俗                  13: メディアと民俗                  14: 現代アートと民俗                  15: まとめ</p>				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	自分の家や住んでいる地域でおこなわれる行事やしきたりを普段から注意深く観察すること。				
評価方法	毎回の授業のコメントシート20%、課題レポート30%、学期末レポート50% 出席が10回に満たない場合はE評価とする。				
課題・試験に対するフィードバックの方法	次回の授業日でコメントシートや課題レポートの中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案等の紹介をする。				
使用テキスト	適宜プリントを配布する。				
参考テキスト・URL	その都度指示する。				
各自準備物					
実習費					
その他					

科目名称	法学(日本国憲法を含む)①②		授業コード	20201590	
担当教員	脇田 吉隆				
単位数	2.0	授業形態	講義	科目分類	歴史・文化・社会／人間・歴史・社会
年次	1	開講年度	2020	開講学期	前期／後期
関連資格	教職				
履修制限等					
授業の目的と到達目標(学修成果)	<p>私たちは一人の人間として社会で生活をしている。その中には法律に関係することは意外と多い。私たちは国家や社会の構成員として一定のルールを定めて生活している。この授業を学ぶ学生は日常生活における社会問題を社会現象として捉え、その法律・憲法問題を法・憲法現象として捉えて、具体的な社会現象を法学的・憲法学的に解決する方法を習得することを授業の目的とする。</p> <p>一人一人の個人が持っている「平和な社会で自由で豊かで幸せに暮らしたい」という要望を憲法学的に実現する方法を論じることを到達目標とする。</p>				
授業の概要(内容)	<p>憲法学をどのような方法で学ぶかを理解し、日常生活と法の関わりの中で、憲法の基本原理は何かを学び、具体的な法現象・憲法現象を挙げて法学的・憲法学的に解決する方法を学ぶ。人権問題、統治機構についての基本的理解と問題解決方法を学ぶことにする。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1: 法律学・憲法学の学び方これまでの教育の問題点と新しい視点について</li> <li>2: 日常生活における法と憲法のかかわり法と憲法は何か人の一生と法</li> <li>3: 日本国憲法の基本原理1 国家の最高法規近代憲法から現代憲法</li> <li>4: 日本国憲法の基本原理2 基本的人権の尊重、国民主権、平和主義</li> <li>5: 日本国憲法の人権問題1 人権の享有主体外国人の人権</li> <li>6: 日本国憲法の人権問題2 平等権法の下での平等</li> <li>7: 日本国憲法の人権問題3 自由権表現の自由とプライバシー</li> <li>8: 日本国憲法の人権問題4 自由権結社の自由と通信の秘密</li> <li>9: 日本国憲法の人権問題5 社会権生存権</li> <li>10: 日本国憲法の人権問題6 社会権教育を受ける権利</li> <li>11: 日本国憲法の統治機構1 立法機関としての国会</li> <li>12: 日本国憲法の統治機構2 行政機関としての内閣</li> <li>13: 日本国憲法の統治機構3 司法機関としての裁判所国民の司法参加</li> <li>14: 日本国憲法の統治機構4 地方自治</li> <li>15: 全体のまとめ及び授業内テスト</li> </ol>				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	授業の最後に次回のテーマを知らせるので、参考テキストで30分の事前学習をしておくこと。				
評価方法	授業内テスト(1/2)、毎回授業時間に提出してもらいレポートと確認テスト(1/2)の割合で総合的に評価する。				
課題・試験に対するフィードバックの方法	<p>毎回授業時間に提出してもらいレポートを第14回の授業で返却して提出状況を確認して解説する。</p> <p>第9回目に確認テストを行う。</p> <p>第15回目の授業で毎回の授業の振り返りとして、再度テーマを選んでもらいレポートを書いてもらう。</p>				
使用テキスト					
参考テキスト・URL	『新・どうなっている！？日本国憲法』[第3版]「第6刷」播磨信義・上脇博之・木下智史・脇田吉隆・渡辺洋編著法律文化社2020年1月				
各自準備物					
実習費					
その他	第1回目に授業の進め方について話し合い、ルールを決めるので必ず出席すること				



科目名称	知的財産権入門			授業コード	20001621
担当教員	齊藤 整				
単位数	2.0	授業形態	講義	科目分類	必修(M、I生限定)、歴史・文化・社会／人間・歴史・社会
年次	2	開講年度	2020	開講学期	後期
関連資格	教職、学芸員				
履修制限等					
授業の目的と到達目標(学修成果)	知的財産権に関する日々の話題にふれながら、意匠権・著作権をはじめとする知的財産権制度の基本を学び、創作活動を行う上で必要不可欠となる知識を習得する。				
授業の概要(内容)	芸術の世界に身を置く人にとって、知的財産権、とりわけデザイン等と密接な関係を有する意匠権や著作権の知識はとて重要である。知的財産権の知識がなければ、自らの創作物に関する権利を守ることが困難となるだけでなく、創作の過程において他人の権利を侵害してしまうことにもなりかねない。				
授業計画	1: 知的財産権[基礎知識Ⅰ: 知的財産とは] 2: 知的財産権[基礎知識Ⅱ: 条約・産業財産権・著作権の概要] 3: 産業財産権: 意匠権[意匠、物品、登録要件] 4: 産業財産権: 意匠権[保護形式~関連意匠・部分意匠など~] 5: 産業財産権: 意匠権[意匠の類似と意匠権] 6: 産業財産権: その他[商標権・特許権・実用新案権] 7: 不正競争防止法[デザインに関する不正競争行為] 8: 著作権[著作物と著作者] 9: 著作権[著作物性Ⅰ: 人形・書体・ロゴ等の著作物] 10: 著作権[著作物性Ⅱ: 絵画・写真等の著作物、二次的著作物] 11: 著作権[著作権Ⅰ: 著作者人格権] 12: 著作権[著作権Ⅱ: 著作権(財産権)] 13: 著作権[肖像権・パブリシティ権] 14: 著作権[著作権の利用、救済、制限] 15: まとめ				
実務経験のある教員	弁理士として培ってきた経験をもとに、具体例等を交えつつ、実務的な観点から知的財産権の基礎知識について講義を行う。				
授業時間外学習	随時、話題となった事件等をトピックとして取り上げる予定である。日頃から知的財産権関連のニュースに関心を持っておくこと。				
評価方法	定期末試験にて評価。				
課題・試験に対するフィードバックの方法					
使用テキスト	随時教材資料を配布				
参考テキスト・URL					
各自準備物					
実習費					
その他					

科目名称	マーケティング論			授業コード	20001210
担当教員	三宅 敦				
単位数	2.0	授業形態	講義	科目分類	歴史・文化・社会／人間・歴史・社会
年次	2	開講年度	2020	開講学期	後期
関連資格					
履修制限等					
授業の目的と到達目標(学修成果)	マーケティング志向の行動とは何かを理解すること。 世の中の現象と企業のマーケティング行動を関連づけて考えるようになること。				
授業の概要(内容)	マーケティングはお客様(顧客)の気持ちを取捨し、お客様が欲しい商品やサービスを提供し続けることで、お客様を満足し続けるための考え方と、そこから生み出される手段である。今日あなたが買ったその商品やサービスには、企業の様々な活動が取り込まれている。あなたが、何故、数多くある商品の中から、その商品を買うことにしたのか？その決定に企業の働きかけが影響を及ぼしている。さらに、あなたの行動そのものが、企業の行動に影響を与える。企業が顧客の動きを取り込みながら、顧客に働きかける。「マーケティング」にはそんな双方向の側面がある。本講義では、そのようなマーケティングが世の中でどのような役目を果たしているのか、またマーケティングをうまく行うために理論がどのように役に立つのかを学ぶ。				
授業計画	1: マーケティング発想の経営 2: マーケティング論のなりたち 3: マーケティングの基本概念 4: 戦略的マーケティング 5: 製品のマネジメント 6: 価格のマネジメント 7: 広告のマネジメント 8: チャンネルのマネジメント 9: サプライチェーンのマネジメント 10: 営業のマネジメント 11: 顧客関係のマネジメント 12: 顧客理解のマネジメント 13: ブランド構築のマネジメント 14: ブランド組織のマネジメント 15: 企業の社会責任				
実務経験のある教員	本講義は、①実務経験教員(アパレル企業勤務27年)が、②アパレル企業で経営企画部門やブランド部門で経験した具体的事例を交えながら、授業を進める。				
授業時間外学習	授業内で、それまでの講義の理解度を確認するため、数回、小テストを行う予定である。授業時間外で復習を行って、準備して授業に出席すること。				
評価方法	授業時間内小テスト:30%+授業内提出レポート:10%+期末試験:60%+授業中の発言での加点 期末試験の未受講、出席が10回に満たない場合はE評価(不可)となる。				
課題・試験に対するフィードバックの方法	小テストの解答、点数分布、平均点は次回にフィードバックする。 レポートの優秀な解答事例は、次回にフィードバックする。				
使用テキスト	講義のなかで適宜紹介・資料配布する。				
参考テキスト・URL	『1からのマーケティング』(第3版):石井淳蔵・廣田章光編 中央経済社				
各自準備物					
実習費					
その他					